

「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード 16)



食用なばな栽培

千葉県農林水産部

1 栽培基準

食用なばなの栽培基準は、化学合成農薬の使用成分回数が7回以下、化学肥料使用量(窒素分量)が20kg/10a以下です。

また、堆肥の施用量は2,000kg/10aが目安量とされています。(表1)



食用なばなの販売荷姿

表1 「ちばエコ農産物」栽培基準における農薬の上限回数と窒素成分の上限量

(平成19年4月現在)

作型	上 限 量		堆肥施用の目安量 (kg/10a)
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	
秋冬どり	7	20	2,000

2 栽培基準達成のポイントと考え方

1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した薬剤防除例を表2に示します。

主要害虫は、ヨトウムシ類、ネキリムシ類、アブラムシ類、コナガ、キスジノミハムシなどで、栽培基準達成のためには、害虫防除がポイントとなります。

病虫害多発時

10～11月に、ハスモンヨトウ、コナガ等が多発するようなら、「化学合成農薬に含めない農薬」である、BT剤（ゼンターリ顆粒水和剤、デルフィン顆粒水和剤）等を使用します。

白さび病に対しても、ジーファイン水和剤を「化学合成農薬に含めない農薬」として使用することができます。

その他

表2の農薬使用例は害虫防除に重点を置いたため、除草剤は入れてありませんが、害虫の発生が少ないと予想される場合には、殺虫剤を1剤減らして、除草剤を使うこともできます。

耕起7日以前ならラウンドアップハイロードを、播種時ならトレファノサイド粒剤2.5またはトレファノサイド乳剤を、収穫21日前までならバスタ液剤が使用できます。

2 施肥

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表4、表5に示します。基肥は鶏ふん堆肥等の有機質資材を用いて化学肥料の使用量を減らします。

水稲後作の場合は、堆肥を入れすぎて肥料分が残りすぎないように、注意が必要です。

畑地では、堆肥の施用量は4 t程度まで増やして、化学肥料の削減分を補うことができますので、容易に栽培基準を達成することができます。

葉色・花蕾の色について

食用なばなは市場出荷においては花蕾の色の濃い物が求められています。栽培品種は中生の中で、花蕾の色が比較的濃い「CR花かんざし」や「花飾り」が適しています。「花飾り」で試験したところ、「ちばエコ農産物」の栽培基準を満たした栽培でも、慣行施肥と同程度の葉色、花蕾の色が得られています。



食用なばなの「ちばエコ農産物」栽培圃場

表4 食用なばな栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した施肥例（水稲後作）

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふん堆肥				1,000			
	稲わら堆肥				1,000			
基肥	苦土石灰				100			
	鶏ふん堆肥	3.8(0)	6.6	3.1	150	5.7(0)	9.9	4.7
	有機アグレット088号	10.0(5)	8.0	8.0	160	16.0(8)	12.8	12.8
	基肥計					21.7(8)	22.7	17.5
追肥	燐硝安加里S604	16.0(16)	10.0	14.0	70	11.2(11.2)	7.0	9.8
	鶏ふん堆肥	3.8(0)	6.6	3.1	160	6.1(0)	10.6	5.0
	追肥計					17.3(11.2)	17.6	14.8
総施用量						39.0(19.2)	40.3	32.3

注) ()内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量

表5 食用なばな栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した施肥例（畑地）

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふん堆肥				2,000			
基肥	苦土石灰				100			
	鶏ふん堆肥	3.8(0)	6.6	3.1	150	5.7(0)	9.9	4.7
	有機アグレット088号	10.0(5)	8.0	8.0	160	16.0(8)	12.8	12.8
	基肥計					21.7(8)	22.7	17.5
追肥	鶏ふん堆肥	3.8(0)	6.6	3.1	300	11.4(0)	19.8	9.3
総施用量						33.1(8)	42.5	26.8

注) ()内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量

その他

登録名称中に「有機」などが記載された肥料でも、化学合成由来の窒素を含んでいることが多いので、肥料袋裏面にある生産業者保証票を確認し、有機質由来と化学合成由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

なお、本施肥例は主要農作物等施肥基準（平成16年、千葉県）に準じて作成しましたが、施肥量は各圃場ごとの土壌診断結果に基づいて決めることをお勧めします。

この「品目別栽培カード」に記載した農薬使用は、平成19年度現地実証試験時点のもので、実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

著 作 千葉県農林水産部担い手支援課
千葉県農林総合研究センター
編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
発行年月日 平成21年3月
内容についての問い合わせ先
千葉県農林総合研究センターTEL . 0470(22)2962

※令和元年6月変更